

提案1 「これまでの授業の歩みと今後の指導計画」(仮称)

教科によっては、20数時間など学期のほとんどを費やす単元もある。そうした授業の指導案の中で、例えば14時間目を研究授業で公開する場合、それまでの13時間分も指導計画で済ませてほしいのかという問題である。あくまで、本時までの時間を事実として記入したい。

提案2 「指導計画と評価計画」(仮称)

これまで指導計画だけで済ませていたが、ほとんどの学校で評価の観点(評価規準)や評価基準を設定してきている。そこで、指導計画という時系列に従い、評価計画もかくべきであると考え。

4 指導計画(時間)

単元構成の工夫...子供の思いや願い、学びの必要感が主体的な学習や問題解決的な学習の基盤となる。したがって、このような子供の側に立った学習のスタートから単元を構想する際の工夫した点を書く。

学習活動・学習内容	子供自らの追求に迫る意識	主体的な学びを創る構え
<第1次> ○○○○ (○時間) 本次の活動で身に付けさせたい学習内容で、枠で囲む。	<ul style="list-style-type: none"> 教材の本質にかかわる中で、実感したり納得したり、また感動したりする子供の内面を書く。 次と次の関連の中で子供の追求への意識の連続発展が書かれるとよい。特に、本次の最終意識が次につながるよう注意する。 	今年度から、子供たちが自分に責任をもちながら、自分の学びを切り拓いたり創り出したりする方法を研究している。そのための教師の構えを次の3点から書く。 【事象とかかわらせる中で】 【自己や他者とのかかわりから】 【場の構成から】 単元全体を通して記述するため、次との対応はない。 文末 ~させる。 ~図る。 ~したい など
<第2次> ○○... (○時間 本時○/○)		

あくまでも一例であり、次構成の記述形式は自由(絵や図など)にするが、項目は取り上げてもらいたい。また、指導時間を柔軟に取扱い、本時をどこに位置付けたりしたかを明確にしたい。

次単元で身に付けさせたい場合はねらいとする。

5 本時案(第 次) 校時 於 (教室以外の場合)

(1) 主眼 指導者が本時の学習を通して身に付けさせたいと考えているねらいを書くようにするもので、具体的な行動目標で記述したい。(例 ~できるようにする。)

(2) 学習過程

学習活動・学習内容	子供自らの追求に迫る意識	主体的な学びを創る支援と評価
1 子供の側から考えた学習活動を記述する (分) この活動で身に付けさせたい内容を書く。したがって、体言止になる。	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学習が展開されるように支援されるわけだから、その活動で湧き起こると考えられる子供の内面を書く。 活動毎の子供の具体的な意識やそれが発展していく姿。 わあ、きれいだなあ。早く作りたいなあ。 	○ なぜ、このような支援をするのかその根拠を書く。(~のために、~させる。) ○ 意図的・計画的な形成的な評価活動により、支援からとらえられる場合は__をつけ、過程で発揮する学力を重視したい。(~することにより、~できるようにする。)

教師の支援として、主発問を書く場合は線で囲む。

単元構成の工夫の欄が設定されている学校はほとんどない。しかし、現在、単元を構想する教師のデザイン力が求められていることから考えれば、表記の別があっても、必ず考えたい内容である。

考えたいのは、ここの項目に何をもってくるかである。自校の研修の特色やもめたいことが書かれるべきである。

学習活動と学習内容の区別区別がつかない授業者が多い。活動は書いても内容が書けない指導者が多い。この活動で何を学ばせたいのかという問いを常にもち、明確に「2桁÷1桁の計算方法」「地域住民の環境意識」と体言止めで書けること。

子ども意識の流れを書く意味よく問われることであるが、子どもの目線で授業を構想するので必要不可欠である。単元導入時に学習対象と出会った子どもたちが、その後どのように思考していくか必然を考えながら想定する授業ラインである。したがって、想定することにより、教師は「本筋から離れそう」とか「離れたが本流に戻りそう」などの見極めが可能になり、次の構想につなげられる。

支援と評価
 これもよく問われることである。まず、指導と支援の違いであるが、大きく支援の中に指導が含まれる考えととらえている。あくまで、子ども主体の授業を構想するとき、子ども自らが追究できるように援助するのが支援である。したがって、知識や技能をしっかりと指導しないと主体的な学びが期待できないと考えれば、しっかりと指導しないとけない。
 支援と評価の一体化と言われ久しいが、本時でこれが機能しているか怪しい。評価は支援の根拠である。常に、支援の根拠を重視したい。また、一体化を即時的な対応と考えれば、予め想定した子どもの姿により、「~をとらえ、~させる。」という表記もできる。

第 学年	タイム(総合の時間)学習案
	指導者
1	単元名
2	単元設定の理由
3	単元の目標
4	単元の評価規準
	学習活動への関心・意欲・態度 …… ……
	総合的な思考・判断 …… ……
	学習活動にかかわる技能・表現 …… ……
	総合的な知識・理解 …… ……

最近、A3用紙が学校の輪転機でも印刷が可能になりました。

そこで、左のようなA3用紙1枚の両面(4ページ)の学習指導案を考えています。項目は各学校の特色があると思いますが、是非、5これまでの歩みと学習計画・評価計画のように、これまで・これからの学習が一望できるレイアウトにしてはどうでしょうか？



5 これまでの歩みと学習計画・評価計画(全 時間)A4×2(見開き)							
学習活動(時間)	子どもの意識の流れ	支 援	具体的な評価規準 関心・意欲・態度 思考・判断 技能・表現 知識・理解	評価方法	評価基準		
					A	B	C
一次 車いす体験を行なう。 (8時間) 社会福祉協議会の方から、車いすの乗り方を聞き、街で体験する。(135分)	・乗り方がわかったから、街に出かけてみたいな。 ・こんな段差でも通りにくいな。 ・階段はどうすればいいのかな。 ・通りにくいところが多いな。 ・車いすの人の立場で街を調査してみたいな。	・子どもたちが自ら様々な問題を見出せるように、事前に、社会福祉協議会の方と体験の目的を打合わせたり、車いす体験を行なったりして活動の具体的なイメージをつくっておく。	車いす体験を進んで行なおうとする。 ()	観察	いろいろな所へ自ら出向き、気付きをもつことができる。	いろいろな所で車いす体験をしている。	車いす体験をしようとしていない。

6 本時案	一次	135分	90分(本時)	90分	45分	全時間(於)
(1) ねらい 主体的な学びを支援するという立場から、語尾は「~できるようにする。」にする。						
(2) 学習の流れ						
学習活動(分)	子どもの意識の流れ			支 援 と 評 価		
1 車いすについて、知っていることカードに書き、発表する。(20分) ・体が不自由な人が使 乗り物だよ。 ・手で動かしたり、後ろから押ししたりして使うよ。 ・おじいちゃんが病院で使ってるよ。				イメージしやすいように車いすの写真を提示する。 車いすに対する知識や見方の変容を重視するために、…。		

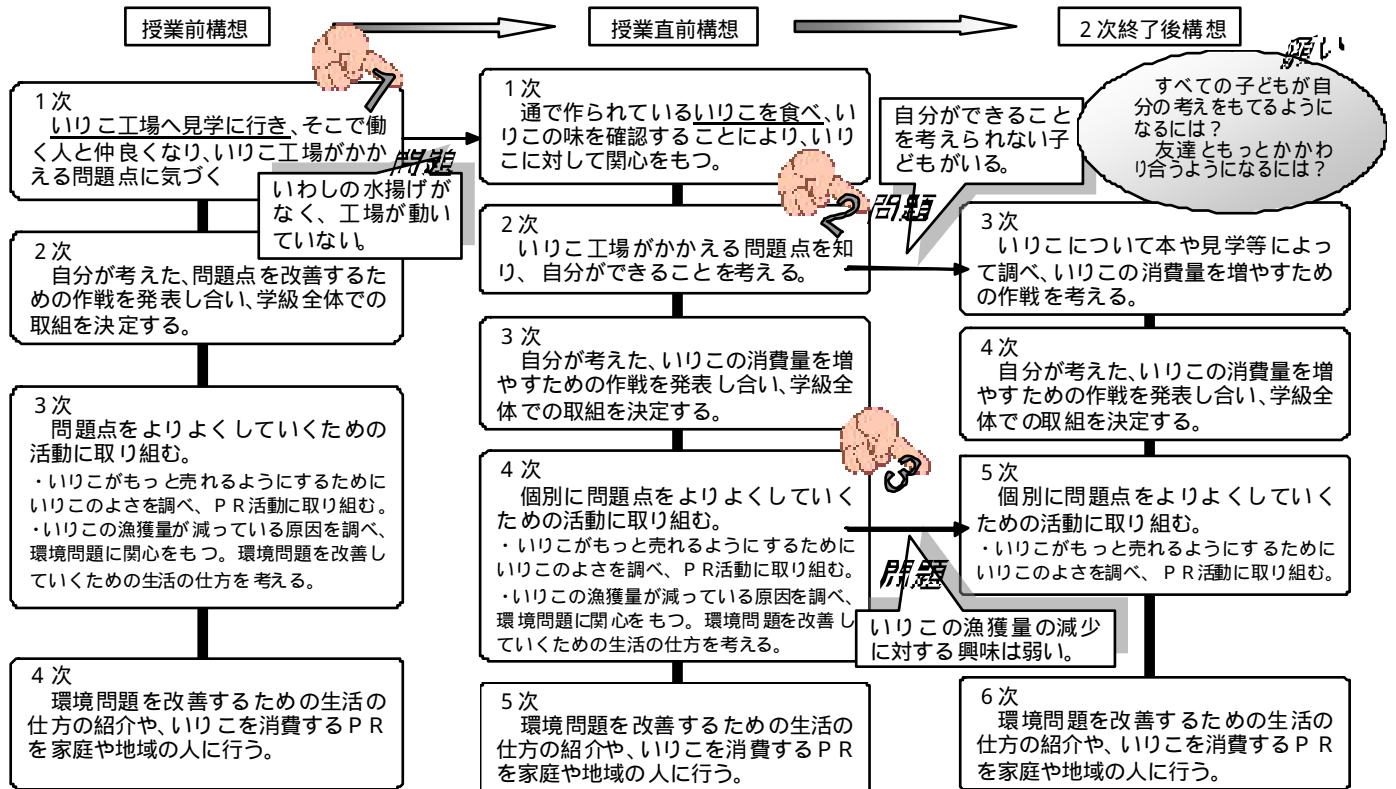
まずは、単元の子どもの意識から

- 指導案を書くときのポイント
- 1 単元を問題発見・問題追究(追求)・自己決定の過程の3段階(次)で子どもの目線で考えて構想する。
 - 2 問題を自ら発見できる学習対象となっているか吟味する。
 - 3 次の段階に行く必然が見出せるか。
 - 4 単元の流れに確信を得たら、総案と本時案を往復しながら、全体、書いていく。

(2) 子どもの事実から方向性を見定め

授業のラインとはちがう発言をすることがある。この発言で、指導計画が変更になることも実際ある。曲げてなるものかと、教師として阻止・死守することもある。しかし、子どもが真剣・本気の目をしておれば、その意見にみんなで乗った方が、いい結果が生まれることの方が多い。

「通のいりこのよさを多くの人に伝えよう」 単元構想の変容



単なる教材研究不足（学習対象は目で確認）



3・4年複式の子どもたちである。いりこを食べて、いりこに関心をもたせたいのはよく分かるが、いりこ工場への問題には子ども意識は向かない。「いりこ工場に何か問題はないかな？」と教師が言うから発表しようかとなることもある。

では、どうすればよいか。上の1~2次で、もっともっと子どもサイドでいりこの情報を収集させる入力の学習させることである。納得がいくまで調べる「いりこ探検隊」を結成するのである



自分の生活とのかかわりから、問題が見つかった時、その問題を自分事として一気に切実感を増す。そして、その問題も吟味されたものではない。まして、いりこの漁獲量の減少で通が危ないなんて思わないし、環境が影響していることも実感がない。ここでの教師の思いは、5年レベルと考えてよい。

このあとの授業は定かではない。中学年の総合は身近な事象を学習対象にすることである。他人事ではなく自分事として考えるからである。いりこ何度かわる中で、いりこにかかわる問題が子どもの側から出てくるものである。つまり、問題を自分で発見できる力の醸成に力点をおくことが重要である。